

聖母の小さな学校 通信

京都府教育委員会認定フリースクール
聖母の小さな学校
2024年
6月1日発行
第273号

これまでの歩みを力にして、馬力をかけて進もう！

紫陽花の花芽が付き始めました。遠からず雨の季節です。平素は聖母の小さな学校の教育に格別のご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

在籍している生徒たちは、4月5月でつけた力でそれぞれの不登校の状況を改善しようとしています。ある生徒は「聖母」に毎日楽しく通学する中で、安心していられる自分に気づきました。そして、教科学習に意欲を持っている自分やもっとダイナミックな活動をしたいと思う自分に気づきました。仲間との交流を通して、自分の持っている、充分ではないにしても対人関係の力があることも分かり、自分はこのままでいいのだろうか、と考え始めています。正しい方向を示したいと思います。またある生徒は、今までできていたことができなくなり、今までとは異なった方向でできることを増やしていこうと取り組んでいます。以前よりも自分自身のことが理解でき、言葉にできるようになったかも分かりません。また、毎日継続して通学できるようになった生徒は、その事を喜びたいと思います。「家の外に出ることができず、毎日、昼頃起きて家族とも話さず、一人でご飯を食べ、部屋から出なかったこと」を思うと、今、毎日聖母に通い、家族と食事をし、そのあと色々話し、心休まる時を過ごし（本人は「団欒をしている」と言っています）、困っていることも家族に話し、また、家族も今まで腫物に^{はれもの}触るような感じだったのが、率直に話しができるようになったと言います。長い時間が必要でしたが、まず、喜びたいと思います。そして、この継続の中から、改善するために具体的な事が見出せるはずです。だから今この時を大事に、同じことを繰り返してゆきましょう。

さて、5月31日は本校の創立記念日でした。それに因み、25日に恒例の^{まつきき}五月祭（ホームカミングデー）をいたしました。卒業生、その保護者たち、教えて下さっている先生方、生徒や運営委員会メンバー、地域の方々など、準備の段階から協力してくださり、当日は66名の参加者がありました。現役の保護者にとって卒業生の保護者たちとの交わりは、大きな力になったことでしょう。提供された焼きそばとおにぎりは、格別の味がしました。また、月2回授業をしてくださる舞鶴市国際交流員アシルベク先生（ウズベキスタン）は、ご家族と留学生4名を引き連れ、プロフ（ウズベキスタンの伝統的な家庭料理）をふるまい、また、アンディジャン・ポルカ（ウズベキスタンの代表的踊り）を披露してくださり、皆で踊りました。音楽、紙芝居に加え、一言タイムでは、それぞれの立場から聖母との関わりや聖母の魅力、来るとほっとする点など楽しい話をしてくださり、交流を深めました。

また、その中で、5月1日のローマ教皇フランシスコとの謁見について報告いたしました。日本には、困難な苦しい状態にあっても克服に向けて、諦めず、コツコツ日々頑張ってる若者たちがいること、その若者たちを教育して35年になる聖母の小さな学校のこと、そして、聖母を支え協働してくださる多くの方々があることなどが伝わったと思います。教皇が我々の席まで回って来られ。握手をした時、その手の感触は「労働者の手」でした。困難であっても共に働く強い意思を感じ、励まされました。勇気をもって支え、協働してくださる方々と共に、聖母の小さな学校を前進させたいと思います。そして、日々、生徒と共に小さな一歩ですが、諦めることなく歩みを続けます。このような機会を準備してくださったカトリック京都司教区 大塚 喜直 司教様（本校顧問）に感謝申し上げます。



5/25 五月祭



5/1 聖ペトロ大聖堂



5/1 教皇フランシスコとの謁見

【パネル展とトークイベント開催のお知らせ】

「聖母の小さな学校パネル展」が6/9～6/28、また、卒業生保護者によるトークイベント「わが子の不登校とどう向き合ったか Part II ～子どもと共に生きた日々～」が6/23（14:00～15:30）に、いずれも舞鶴市の西市民プラザで開催されます。どうぞ、お越しく下さい。